

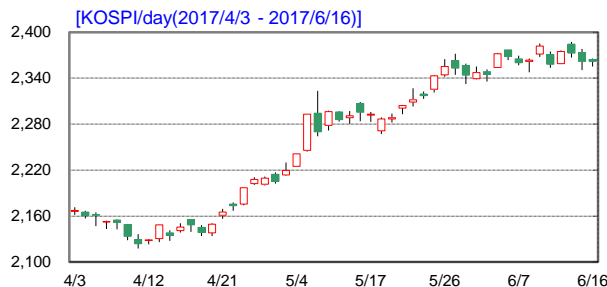


## 【韓国】 総合指数は週間で0.8%安と9週ぶり反落、米利上げ決定が重し

### 先週の動き／今週の展望

総合指数は週間で0.8%安と9週ぶりに反落。前週末に過去最高値を付けたことを受け、売り圧力の強い相場環境が続いた。週初12日は米ハイテク株安が地合いを悪化させた上、米連邦公開市場委員会（FOMC）を控えた慎重ムードも加わり反落スタート。13日はハイテク株に安値拾いの買いが入り反発。ただ、週後半は米連邦準備理事会（FRB）の予想通りの利上げとバランスシートの縮小に着手する方針を受けて相場が押し下げられた。「FRBは年内に再利上げを予想しており、第2四半期の米経済成長に強い自信を持っているように見える」とのアナリストの声を受け、国内機関投資家が警戒心を強めた。今週も利益確定売りの出やすい環境が続きそうだ。経済指標では19日に5月の生産者物価指数（PPI）が発表される。

### ▼指数チャート

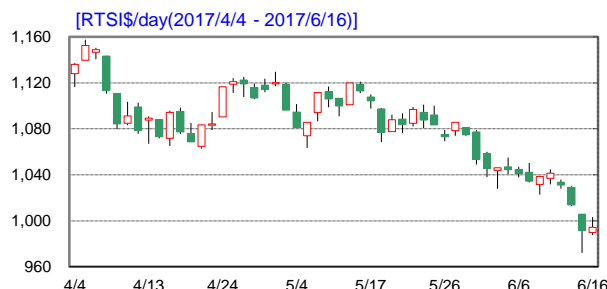


## 【ロシア】 RTS 指数は週間で4.5%安と5週続落、今週は原油相場の動向次第か

### 先週の動き／今週の展望

RTS 指数は4営業日の取引で4.5%安と5週続落。原油相場の急落を受けて連れ安した。週前半の13日と14日は、48ドル台を維持していたブレント原油先物に支えられ、1000ドルの大台を維持した。ただ、14日の取引終了後に原油相場が46ドル台に急落すると、15日には昨年11月21日以来の1000ドル割れとなり、場中に前日比4.1%安の972.08ドルまで急落。16日はロシア中央銀行が主要政策金利を0.25%引き下げて9.00%としたことを支援材料として、一時は1000ドルを回復したが、前日に米国の上院議会が新たな対ロシア制裁法案をほぼ全会一致で可決したことが重しとなった。指数の戻りは鈍く、前日比0.2%高の994.38ドルで週の取引を終了した。今週は原油相場次第。原油相場が下げ止まらなければ軟調か。

### ▼指数チャート

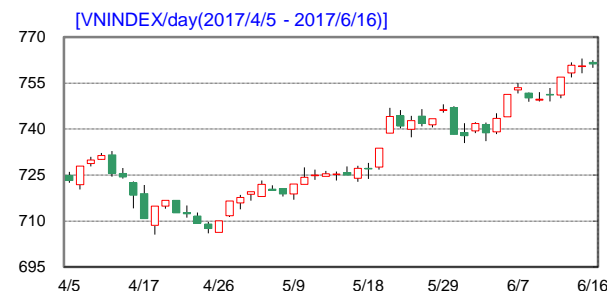


## 【ベトナム】 VN 指数は週間で1.5%高と続伸、今週は引き続き堅調な展開か

### 先週の動き／今週の展望

VN 指数は週間で1.5%高と続伸。前週に反発した流れを引き継ぎ、総じて堅調に推移した。週明け12日に751ポイント台で寄り付き、一時マイナス圏に転落したが、すぐに買い戻されてプラス圏に浮上すると、その後は週末までプラス圏を維持し、15日には762.98ポイントまで上昇。前週に続き9年4カ月ぶりの高値を更新した。16日は高値圏でのみ合いとなり、前日比ほぼ横ばいの761.24で週の取引を終了した。売買代金は前週比で4.5%増と堅調。特に16日には5月22日以来の5兆ドンを超えとなった。個別銘柄では、ファロス建設、ピナミルクが軟調。一方、サイゴンビールやベトナム産業貿易商業銀行、ベトナム投資開発銀行など銀行株の多くが続伸し、VN 指数を押し上げた。今週は引き続き堅調な展開か。

### ▼指数チャート



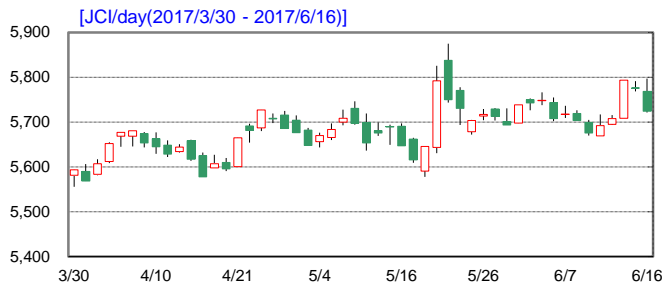


## 【インドネシア】

**【先週の動き／今週の展望】ジャカルタ総合指数は 0.8%高、14 日に過去最高値を更新**

ジャカルタ総合指数は週間で 0.8%高と反発。週半ばまで堅調に推移したが、その後の下落が上昇幅を縮めた。14 日は FOMC の閉会を目前に控え、声明内容に対する期待感から買われて指数は前日比 1.5%高と続伸し、終値の過去最高値を更新。一方で 15 日は、5 月の輸出入額がともに市場予想から大幅に上振れしたものの、前日に発表された米国の 5 月の CPI と小売売上高が弱い内容だったことを受けて売られ、指数は 4 日ぶりに反落した。15 日の取引終了後に発表された政策金利は 8 会合連続で 4.75%に据え置かれている。今週は翌週に控えた断食明け大祭の連休を前に節目の 5800 ポイントに到達するかが焦点。

### ▼指数チャート

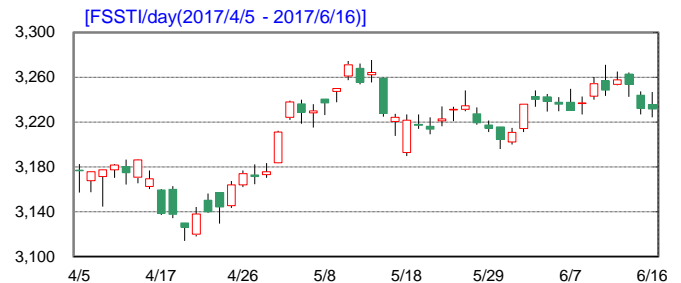


## 【シンガポール】

**【先週の動き／今週の展望】ストレーツタイムズ指数は 0.7%安、今週は 5 月の CPI に注目**

ストレーツタイムズ指数は週間で 0.7%安と 4 週ぶりに反落。さえない値動きが続いた 1 週間だった。週初の 12 日は 4 月の小売売上高が前年同月比 2.6%増と市場予想を上回ったものの買い材料にならず指数は反落。13 日は反発したが、14 日に再び下落すると週末まで 3 日続落して週の取引を終えた。16 日に発表された 5 月の非石油地場輸出は、前年同月比 1.2%減と市場予想の 5.6%減から上振れしたが補えなかった。今週は 23 日に 5 月の CPI と鉱工業生産が発表される予定。市場では前年同月比の CPI 上昇率が 1.3%と予想されており、2 年 9 カ月ぶりに 1%台を回復すれば株式相場の支援材料になりそうだ。

### ▼指数チャート



## 【タイ】

**【先週の動き／今週の展望】SET 指数は 0.6%高、場中に約 2 カ月ぶりの高値更新**

SET 指数は週間で 0.6%高と 3 週ぶりに反発。国内の重要イベントが少ない中、外部要因が指数上昇をけん引した。12 日は続落して始まったが、13 日は原油の需給バランスが改善するとの見通しを受けた価格上昇を好感して指数は反発。14 日は前日の NY ダウが反発した流れを引き継ぎ続伸すると、15 日には場中に一時、約 2 カ月ぶりに 1580 ポイントを回復した。今週は国内の経済指標発表が少なく、前週末に NY ダウが過去最高値を更新したことに対する市場の反応が注目されるほか、米利上げ決定を受けて新興国からの資金流出が警戒される中、ドルに対するパーツの安定が続けば、株式相場への追い風になる。

### ▼指数チャート

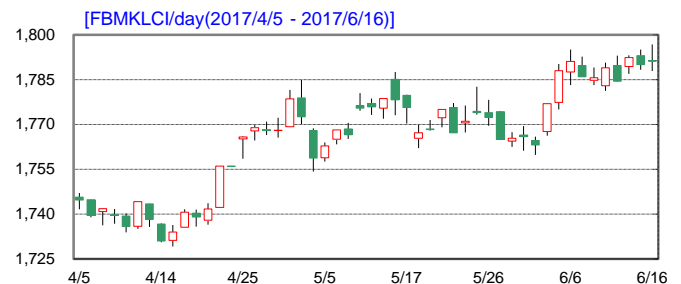


## 【マレーシア】

**【先週の動き／今週の展望】クアラルンプール総合指数は 0.1%高、今週は物価上昇圧力の低下に期待**

クアラルンプール総合指数は 4 日間の取引で 0.1%高と 4 週続伸。国内の経済指標発表が少なく買い材料に乏しい中、小幅なレンジで一進一退を繰り返した。連休明けの 13 日は FOMC を目前に控えた様子見で反落したものの、14 日は前日の欧米市場で株価が上昇した流れを引き継ぎ反発。一方、15 日は FRB による 0.25 ポイントの利上げ決定を受けて、米国への資金流出懸念が高まり、為替相場ドルに対してリングが下落したことが嫌気された。今週は 21 日に 5 月の CPI が発表される予定で、前年同月比の上昇率は 4.2%と高い水準が続く見通しだが、市場予想から下振れし、物価上昇圧力が和らげば好材料。

### ▼指数チャート



本レポートは、株式会社 DZH フィナンシャルリサーチ（以下、「DZH」と称します）により作成されたものです。

本レポートは、DZH が信頼できると判断した各種データ、公開情報に基づいて作成しておりますが、DZH はその正確性、完全性を保証するものではありません。

ここに示したすべての内容は、DZH で入手しえた資料に基づく現時点での判断を示しているに過ぎません。

DZH は、本レポート中の情報を合理的な範囲で更新するにしておりますが、法令上の理由などにより、これができない場合があります。

本レポートは、お客様への情報提供のみを目的としたものであり、特定の金融商品の売買あるいは特定の金融商品取引の勧誘を目的としたものではありません。

また、本レポートによる情報提供は、投資等に関するアドバイスを含んでおりません。

本レポートにおいて言及されている投資やサービスは、個々のお客様の特定の投資目的、財務状況、もしくは要望を考慮したものではありませんので、個々のお客様に適切なものであるとは限りません。

本レポートで直接あるいは間接に取り上げられている金融商品は、株価の変動や、発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化、金利・為替の変動などにより投資元本を割り込むリスクがありますが、DZH は一切その責任を負いません。

DZH は、レポートを提供している証券会社との契約に基づき対価を得ております。

DZH およびグループ会社は、本レポートの論旨と一致しないレポートを発行している場合があります、また今後そのようなレポートを発行する場合があります。

DZH、グループ会社およびその役職員は、本レポートに記載された金融商品について、ポジションを保有している場合があります。

本レポートでインターネットのアドレス等を記載している場合がありますが、DZH 自身のアドレスが記載されている場合を除き、ウェブサイト等の内容について DZH は一切責任を負いません。

本レポートの利用に際しては、お客様ご自身でリスク等についてご判断くださいますようお願い申し上げます。